

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【栄小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	・「さいたま市学習状況調査結果・分析」で挙げた、課題に重点を置いた学習指導の充実。 ・基礎基本の定着を図るための、反復学習やICT機器の活用した学習の充実。
思考・判断・表現	・「さいたま市学習状況調査結果・分析」で挙げた、課題に重点を置いた学習指導の充実。 ・理由や根拠に裏付けられた発言や発表、表現」や、日常生活における「考えて行動する」ことの定着を意図した活動の実施。
主体的に学習に取り組む態度	・学習の定着を図るため、「学習の意図や目的」や「学習したことと実生活の結びつき」等を明確にした指導の実践。 ・児童が進んで学習できるよう、教職員一丸となって、①自分がやるべきこと、やらなければいけないことに立ち向かう強い気持ち、②学習計画を立てる習慣、③今、自分ががんばることは何かを判断できる力、といった力の育成に努める。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、令和4年度の自校の市平均との差を3ポイント向上させる。	⇒ 基礎基本の定着を図るための、反復学習やICT機器を活用した朝学習を実施する。<ぐんぐんタイム>での取組から到達状況や実態把握を行い、一斉での確認指導や、個別指導を行う。一人一台のタブレットを用い、「ドリルパーク」等を活用する。また、個の学びが進められるように積極的な活用を図る。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の市平均との差を3ポイント向上させる。	⇒ 本時の学習のめあてを明確にするとともに、本時の振り返りを行う。解決方法の見直しをもつ場面、自分の考えをもつ場面、伝え合う場面を、意図的に設定する。「理由や根拠に裏付けられた発言や発表、表現」や、日常生活における「考えて行動する」ことの定着を意図した活動を行う。
主体的に学習に取り組む態度	学校評価における「自分は進んで家庭学習を行っている。」の肯定的な回答の割合を令和4年度の値より2ポイント向上させる。	⇒ 児童自らが学習計画を立てたり、学習課題を設定したりする活動や、児童自身の学習の仕方を振り返りながら自己評価する時間を確保する。「家庭学習の手引き」を活用して家庭学習の仕方を確認し、家庭学習の推進を図る。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度のさいたま市学習状況調査の「知識・技能」に関わる領域において、令和4年度の自校の市平均との差を縮めることができたのは、小3の国語と算数、小4の算数、小6の社会に留まった。またどれも目標の3ポイントには達しなかった。	C
思考・判断・表現	令和5年度のさいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」に関わる領域において、小3の国語、小4の国語と算数、小6の理科と社会の5教科で令和4年度の自校の市平均との差を3ポイント以上縮めることができた。他の7教科では差を縮めることができなかった。	C
主体的に学習に取り組む態度	・令和4年度の学校評価における「自分は進んで家庭学習を行っている。」の肯定的な回答の割合は85.3%、令和5年度の学校評価における「自分は進んで家庭学習を行っている。」の肯定的な回答の割合は83.1%だった。令和5年度は令和4年度の値より2.2ポイント減少した。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	・漢字の書き取りが全国平均を下回った。同音異義語の書き間違いが目立ったので、繰り返しの学習とともに漢字と意味を結び付けて覚えられるようにしていきたい。 ・問題文に示された割合にあたる量を選ぶ問題で課題が大きかった。割合と量を混同している児童が多く見られたので、確実な意味理解を促していきたい。
思考・判断・表現	・国語の「作文」に課題がみられた。資料を活用すること、条件に合った文章を作成することが苦手の児童が多かった。図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する活動を重視したい。 ・算数の「図形」において、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がみられた。面積を求めるだけでなく、立式の根拠や、解法の説明を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	・国語、算数の調査で「最後まで解答を書こうと努力した。」と回答した児童の割合は、どちらも全国平均よりも高かった。粘り強く問題に取り組んでいる児童が多かった。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」の項目で全国平均を大きく上回っていることから、これまでの策が有効であったととらえられる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	・国語、算数ともにさいたま市の平均を下回った。その中で、国語では「主語・述語の関係」、算数では「3位数×1位数の計算」、「小数の減法」に関して、それぞれ課題がみられた。	小4	・国語、算数ともにさいたま市の平均を下回った。その中で、国語では「主語・述語の関係」、「漢字」、算数では「3位数×3位数の乗法」、「除法」に関して、それぞれ課題がみられた。
小5	・国語、算数、社会、理科ともにさいたま市の平均を下回った。その中で、国語では「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」、「主語と述語」、算数では「立体と展開図の関係」、「複合グラフから読み取ること」、社会では「世界における我が国の国土の位置」、「消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産しようとする工夫や努力を考えること」、理科では「回路や電流に関する知識」に関して、それぞれ課題がみられた。	小6	・国語、算数、社会、理科ともにさいたま市の平均を下回った。その中で、国語では「相手や場面に応じて、適切に敬語を使うこと」、「文章全体の構成や展開を考えること」、算数では「基準量・比較量・割合の関係を捉え、比較量を求めること」、「事象を数理的に捉え、順序良く整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べること」、社会では「資料から読み取ること」、「年表を手掛かりに時代や文化を正しく選択すること」、理科では「顕微鏡や方位磁針の正しい使い方や手順」、「水溶液についての知識」に関して、それぞれ課題がみられた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 漢字の学習では、ノートやワークシートを活用して定着を図るとともに、文章の中で積極的に漢字を使わせるようにする。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 課題解決時に、情報を整理したり、根拠や解法を確認したりする活動を重視する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 年度当初に立てた策について、より充実を図っていく。